



アメリカ映画を楽しみながら交渉のヒントを探る『映画に見る交渉術』のコーナーによるこそ！

今回のテーマは、「大仕事の前にやる気を出させるには？」です。

アメリカのコメディ映画『スクール・オブ・ロック』（原題：School of Rock）のワンシーンから、仲間や部下のやる気に火をつける熱いセリフを見つけましたので、どうぞお楽しみください。

---

“Chances like this do not come around every day.”

「こんなチャンスは毎日やってくるものじゃない」

“So let's just give this everything we got.

We may fall on our faces, but if we do, we will fall with dignity!”

「だから、やってきたことすべてをこのチャンスにぶつけようぜ。

無残な失敗をするかもしれないが、そうなっても威厳を忘れずにな」

“I salute you.”

「おまえたちに敬礼」（デューイ）

・・・『スクール・オブ・ロック』 2004年日本公開

---

デューイ・フィン（ジャック・ブラック）は、アマチュアロックバンドのギタリスト。ダサイ見た目も気にせずスターを気取るため仲間から愛想を尽かされ、バンドから追い出されてしまいます。



ルームメイトからは家賃の不払いを責められ、切羽詰ったデューイは他人になりすまして名門私立小学校の代用教員の職に就くことに成功。そこで音楽の才能豊かな子どもたちと出会い、彼らを利用して憧れのバンドコンテストに出場することを思いつきます。そして秘密のプロジェクトとしてバンドの猛特訓が始まりました。引用したセリフは、コンテストを翌日に控え、デューイが子どもたちに語りかけたものです。

「こんなチャンスは毎日やってくるものじゃない」。

チームで大きな仕事（映画ではバンドコンテスト）に取り組むときに、リーダーがハッパをかけたくなるのは洋の東西を問いませんが、デューイはさらに、

「やってきたことをぶつけよう、失敗しても威厳を保て」

と続けます。つまり、力を出し切れ、自分たちを誇りに思え、ということです。子どもたちのこれまでの努力を認め、敬意を払っているからこそいえるセリフです。

振り返って、職場では仲間や部下の努力に敬意を払い、それをきちんと言葉にして伝えているでしょうか？

「敬礼！」とまでいかなくとも、まずは「信頼しているよ」という気持ちを言葉にしてみてもいいでしょう。その言葉を意気を感じて、人はやる気になるのです。さて、映画の子どもたちは無事コンテストに参加できるのか？ダメ男デューイの成長ぶりと併せてぜひ映画でお楽しみください。